

鉄道車両用アクティブサスペンションが
近畿日本鉄道の観光特急「しまかぜ」の全車両に採用

新日鐵住金株式会社（代表取締役会長兼 CEO：宗岡正二 以下、「新日鐵住金」）の鉄道車両用の動揺防止制御装置（アクティブサスペンション）が、本年3月21日より運行を開始した近畿日本鉄道株式会社（以下、「近畿日本鉄道」）の観光特急「しまかぜ」の全車両に採用されました。近畿圏の鉄道では初の採用であり、また全車両への搭載は新幹線以外では「しまかぜ」が初めてとなります。



観光特急「しまかぜ」 写真提供：近畿日本鉄道株式会社

当社が開発したアクティブサスペンションは、鉄道車両の横揺れを低減させます。車体に備えられたセンサーで車体の振動を検知して、逆方向の力をアクチュエーターより発生させ、振動を打ち消すようにコンピュータで制御する仕組みとなっており、ワンランク上の乗り心地を提供する優れた振動制御装置です。2001年に営業車として世界で初めて東北新幹線E2系^{*1}に搭載されて以来、秋田新幹線・山形新幹線のE3系^{*2}や成田エクスプレス、京成新スカイライナー、小田急ロマンスカーVSE、常磐線新型特急E657系などの特急電車に採用され、高く評価されています。

「しまかぜ」は、大阪および名古屋から伊勢志摩までを走る特急です。この特急には専属のアテンダントが乗車し、3列配置の本革シートには、電動レッグレスト（ふくらはぎを支える足のせ）や鉄道車両では日本初採用の腰部エアクッション（ランバーサポート、リラクゼーション機能）が装備されるなど、ハイグレードな車内設備が設置されています。また、2階建のカフェテリア車両、和風個室や洋風個室のグループ席車両など、ユニークで

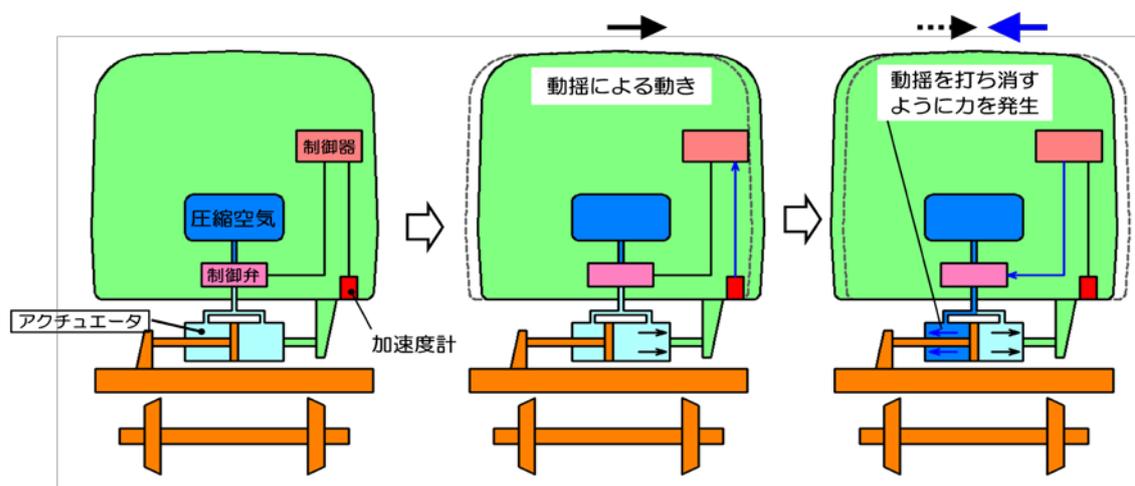
ゴージャスな快適車内空間が実現され、乗ること自体が楽しみとなるような「観光特急」です。近畿日本鉄道へはこれまで当社の車輪・車軸・連結器などを長年お納めしてきましたが、制御装置が採用されるのは、今回が初めてのことです。

新日鐵住金は、今後もより快適で安全な乗り心地を実現し、世界の鉄道発展に貢献してまいります。

* 1 : 「東北新幹線E2系」は、「はやて」や「やまびこ」の名称で走行しています。

* 2 : 秋田新幹線は「こまち」、山形新幹線は「つばさ」の名称で走行しています。

アクティブサスペンションの仕組み



お問い合わせ先：総務部広報センター 03-6867-2977